

不登校・引きこもりの素因

交流分析では、人間の心には5つの自我状態、即ちCP:批判的な親の心—頑固親父、NP:保護的な親の心—世話好きおばさん、A合理的な大人の心—コンピューター人間、FC:自由な子供の心—やんちゃ坊主、AC:順応した子供の心—いい子ぶりっ子があると考えており、その自我状態から給付されると想定される心的エネルギーの量を、グラフに表現したものがエゴグラムである。交流分析による心理カウンセリングを行う当フォーラムでは、各人の対応にはこのエゴグラムを活用する。これまで私共で対応してきました児童・生徒の中で、この交流分析を採用してから取りました児童・生徒のエゴグラムを分析すると、これまで述べてきたそれぞれの心理的原因が見えてくる。

不登校時のエゴグラムに不登校の素因が見事に表現されている。即ち、これまで対応してきた不登校生に多く見られるのは、NP（又はA）とACの値が高く、CPとFCが低いN型・自己否定、他者肯定型で、特にACが高いのはほぼ共通している。即ち、自分を抑えて相手からよく思われるように行動する。どちらかという、おせっかいが高いNPと相まって、まさしく「いい子」なのである。劣等感・無力感を持ちやすく、本当の自分を出せません（というよりは、確立がしていない）。やりたいこともやれず、言いたいことも言えない傾向があるため、ストレスが溜まりやすいのも、自主性の未発達ゆえである。

また、Aが高い値を示し、物事を合理的に考え、あるいは、あれやこれやと考えすぎて人と接するがために友達ができにくく（あるいは友達が離れていき）、友達の誤解を招きやすい。同じAが高くても、CPが最も高くNPが最も低い時は、学習態度が悪く節度なく小グループ化する子達が許せない。

ところが、同時にAC（いい子）も高いので、それを外部に向けて表出することができないために教室には行けず、好きな読書で平穏に過ごしたく当フォーラムに来る（勿論、他の生徒とは別教室）。しかし、当フォーラムだけでは学校の数人の話せる友達と全く会えないので、その関係は保ちたく学校の保健室なり、カウンセラー室に行く。

低いCPは、「反抗現象」の少なさを表す。時に高いCPを示し、同時に高いACを示す子供は、攻撃感情を内に向け「自分はみんなと違ってダメな人間なんだ」とか、自己嫌悪や自己処罰の形で処理する。あるいは、場合によっては不穏期の現れかもしれない。

さらに、低いFCは感情交流が下手なので、友達がなかなかできないことを示し、同時にNPも低い場合、他人との楽しく温かい関わりができず、引きこもっている状態を示す。同時にCPも高いと、攻撃感情は自己嫌悪をも越し、半ば自暴自棄にまで自分を追いやり、唯一の慰め(女子)にすぎり、非行行動に走る男子もいた。